

2011.9.9.

土木学会研究討論会
「土木分野における NPO 活動と土木学会の役割」報告

内藤 堅一

1. 開会挨拶

成熟したシビルエンジニア活性化小委員会 内藤堅一前委員長

2. 座長オープニングコメント 駒田智久

1) 自己紹介

2) 開催趣旨

(1)新しい公共

(2)NPO 活動

(3)中間支援組織

(4)土木学会の役割

3. 話題提供 (渡邊・竹内両外部協力者の内容については別紙参照)

1) 渡邊法美：高知工科大学教授

「新しい公共と NPO 活動、その土木分野における意味」

2) 竹内よし子：NPO 法人えひめグローバルネットワーク代表

「地方からの国際化、地域での環境連携」

3) 有岡正樹：NPO 法人社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会代表

「土木分野の NPO 活動の実態と学会支援の NPO 中間支援組織について」

4. 意見交換

1) 話題提供者への質問

(1)会場から

① 栗崎：有岡氏に 事業規模 500 万円未満、500 万円以上の分類はどのように決めたのか？→有岡：アンケートの集計結果から

② 澤：高専の教官、2 つの NPO に参加している。国交省から 1,000 万円単位で受注したこともある。竹内さんの NPO の分類と規模は？

→竹内：3,000～3,500 万円程度、スタッフ 6 人、パート 6 人、モザンビーク現地スタッフ、ワーキングプアの状態だが、意識は高く頑張って貰っている。

(2)話題提供者相互

① 駒田：竹内さんから土木系の他の 2 人の発表に対する感想は？

→竹内：土木系という狭い分野での議論をしない方が良い。

② 竹内：NPO の分類で NGO 的、事業的、ボランティア的という分類をしているが根拠は何か？

→有岡：アンケートでこの3分類で法人の性格を記載して貰った。

- ③ 有岡：渡邊氏へ 土木学会小委員会 2002～2004 の3年で何故やめたのか？

→渡邊：当時は、NPO 活動はしていなかった。高知県を知らなかった。委員会活動を休止して、物部川 NPO に参加して、知見を高めた。今また再開したいと考えている。

- ④ 竹内：モザンビーク現地に入って人と触れ、空気を吸うことが大切。学びを実践。学生、子供との協働が大切。幅広い世代の参加が必要。土木学会の教育企画・人材育成委員会が扱っていることに注目する。

- ⑤ カラオケが好きで、物部川の歌を学生が作詞・作曲した。同好会が地元の小学生に歌唱指導した。いろいろな分野の人が関りあうことが必要。

2) 土木分野における新しい公共や NPO 活動について

(1) 話題提供者相互

- ① 有岡：PFI、新しい公共など国がどこまでやる気か分からない。東日本大震災で瓦礫処理の提案をした。環境省は分別処理、リサイクルの方針だが、分別しないで現地処分、ソイルセメントで危険物が漏出しないように考えた。環境省、国交省、農水省がバラバラである、NPO は法律を変えてもやれという立場で、そういう仕組み作りも新しい公共と考える。

渡邊：公共事業＝土木、新しい公共＝今ある仕事 が制約になる。資源活用方法の提案、持っている資源を結びつける方法が大切で、竹内さんの事例がある。

- ② 駒田：新しい公共＝古い古い公共＝一昔前の公共 橋の建設も官ではなく民がやっていた。地域づくり、街づくりも…

→竹内：新しい公共 開発教育は協働が基本、受託・請負即ち役所の下請けでは新しい公共は作れない。協働事業の実施のための協定書、役割り分担、合意、より効果的な組み合わせが必要である。

(2) 会場から

- ① 野村：NPO の事務局をしている。発注者の受け皿として NPO 法人を作ることが行われている、これは新しい公共としては不純である。土木学会が然るべき所に政策提言するべきである。

(3) 座長から

- ① 駒田：NPO 参加者がリタイア組だけでなく、若い人も参加できるようにしたい。

→渡邊：父親の死 仕事、ゴルフ、飲むだけでなくバランスの取れた人生が大切で、自分の幸せを高めるために、現役時代から社会とのかかわりを持つことが大切である。

- ② 駒田：竹内さんが土木屋との連携について述べられたが、具体的にはどんなことか？

→竹内：モザンビークで道路は出来たが地域住民と接触していないので、有効に使われていない。道の駅、自転車利用を考える。何のためにやるのか、立位置を

はっきりさせてやるのが大切。土木系は技術を持っているので連携したい。

3) 土木学会の役割りについて

(1) 話題提供者相互

- ① 渡邊：協働しているところのプラットフォーム。旨くいっているところと、いっていないところがある。コミュニケーションの不足。
- ② 竹内：情報の収集
- ③ 有岡：東日本大震災の復興で PFI,PPP 協会との新聞発表を行った。一 NPO 法人の提言では採用されない。土木学会災害対策特別委員会の提言は採用された。中間支援組織が認知されれば、NPO の提案が活かされる。

(2) 会場から

- ① 後藤：NPO はリタイヤ組+現役の構成が大切である。

5. 最後に

- 1) 有岡：寄付について、議員立法が行われた。目的寄付の概念、注目して欲しい。
- 2) 駒田：渡邊先生 生き様、竹内代表 グローバル、地域的、土木との連携について話を頂いた。

建設系 NPO 法人中間支援組織設立準備会の下に建設系 NPO 法人連絡協議会を立ち上げる方向で活動している。これらの活動が土木学会 100 周年記念事業に採択されるように努力し、新しい公共と土木についても議論を深めていきたい。

少し時間を超過しましたが、本日は有難うございました。

以上

話題提供する渡邊法美先生



話題提供する竹内よし子代表



話題提供する有岡正樹氏



パネルディスカッションの座長とパネラーの皆さん



会場風景 広会場に参加者は10名程度であった

